

2020年度 第1四半期 決算概要

2020年7月30日
沖電気工業株式会社

2020年度 第1四半期 決算の概要

- 大型案件の一巡や新型コロナウイルス感染症の影響などにより売上高が減少。
- 売上高の減少にともなって各段階の利益が悪化。

(単位: 億円)	20年度 実績	19年度 実績	前年比
売上高	814	1,076	△262
営業損益	△11	11	△22
経常損益	△21	1	△22
(親会社株主に帰属する) 四半期純損益	△33	△4	△29
USD平均レート(円)	107.6	109.9	△2.3
EUR平均レート(円)	118.5	123.5	△5.0

- 売上高は262億円減少の814億円となりました。
前年度にあったキャリア向けネットワーク関連の大型案件や一部官公庁向けの大型更新需要が一巡したこと、さらにブラジル子会社の事業譲渡を行ったこと、加えて新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた海外市場での販売不振もありました。
- 大幅な減収の結果、各利益段階の実績は11億円の営業損失、21億円の経常損失となりました。
- 四半期純損失は前年度にあった非事業性資産の売却などによる特別利益の計上が無かったことなどから前年差は広がり、33億円の損失となりました。
- 第1四半期における新型コロナウイルス感染症の影響額は、売上高で約110億円、営業利益で約20億円のそれぞれマイナス影響があったとみています。国内外の内訳としては、国内の影響は売上高30億、営業利益で8億、海外の影響は売上高80億、営業利益12億となります。
- 各国での社会・経済活動は、これまでは主に感染リスクの回避が優先されてきたと思います。しかしこれからは社会的にある程度リスクを許容しながら経済活動とのバランスを図る、いわゆるニューノーマルに向けた動きに変わりつつあると考えております。業績への影響は第2四半期以降軽減され、第3四半期以降は回復基調に入ると想定しています。

2020年度 第1四半期 セグメント情報(売上高)

- ソリューションシステム
前年度にあった大型案件(NW関連および一部官公庁向け)の剥落、前年度の売上基準変更の初年度影響が消え減少。
- コンポーネント&プラットフォーム
新型コロナウイルス感染症の影響により海外市場での機器販売が低迷しプリンター消耗品を中心に需要減、国内市場での影響は限定的。

(単位:億円)	20年度 実績	19年度 実績	前年比
ソリューション システム	400	528	△128
コンポーネント& プラットフォーム	400	516	△116
そ の 他	14	32	△18
合 計	814	1,076	△262

※19年度実績はリステート後

- 4月1日付け組織体制の変更にともない、事業のマネジメント単位および開示セグメントを変更しております。旧情報通信事業がソリューションシステムに、旧メカトロシステム、プリンター、EMSはコンポーネント&プラットフォームに統合しています。これにより、リソース配分の最適化と新規事業開発を加速していく所存です。
- ソリューションシステムの売上高は前年比128億円の減少となる400億円。キャリア向けのネットワーク関連案件や一部の官公庁向け案件の減少と前年度の売上基準変更の初年度影響が消えたことが主な影響となります。
- コンポーネント&プラットフォームの売上高は前年比116億円の減少となる400億円。海外市場では新型コロナウイルス感染症拡大の影響を強く受けました。アジア市場における自動機の入札中断、欧米市場におけるプリンター消耗品の販売不振が主な減少要因となりました。国内市場では自動化機器の一部で第2四半期以降への期ズレ等があるものの、相対的に安定して推移しました。
- その他につきましてはブラジル子会社の事業譲渡の影響が含まれていることが影響しています。

2020年度 第1四半期 セグメント情報(営業利益)

- ソリューションシステム
主に大型案件の剥落などにもなう減収の影響。
- コンポーネント&プラットフォーム
販売不振による減収の影響、消耗品の減少による売上構成の悪化。

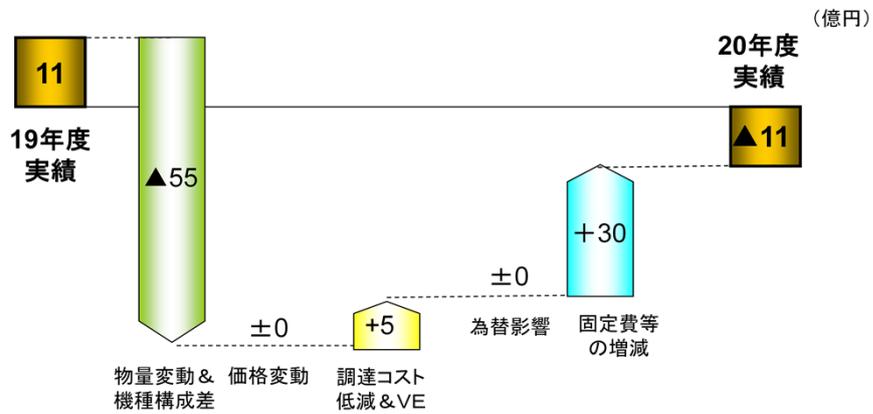
(単位:億円)	20年度 実績	19年度 実績	前年比
ソリューション システム	17	25	△8
コンポーネント& プラットフォーム	△17	3	△20
そ の 他	0	△1	+1
消去・本社費	△12	△17	+5
合 計	△11	11	△22

※19年度実績はリステート後

- ソリューションシステムは前年比8億円減少し17億円の営業利益となりました。減益の主な要因は売上減少にもなうもので、特筆すべき費用増や売上構成の悪化などはありませんでした。
- コンポーネント&プラットフォームは、前年比20億円悪化し17億円の営業損失となりました。新型コロナウイルス感染症の影響は特に海外ビジネスで大きく、需要の減退にもない販売が振るいませんでした。
- 欧米市場では利益幅の大きいプリンター消耗品が減少し、売上構成が悪化したことがセグメント全体の利益悪化の大きな要因となりました。
- アジアにおいては、自動化機器の最大市場であるインドで都市封鎖が続くなどの影響で、全般に設備投資が手控えられています。ATMなどの自動化機器についても入札機会は限定されている状況ですが、第3四半期以降は状況が安定化し、市場環境も回復していくものと期待しています。
- 国内市場については一部に売上の期ズレ影響があるものの、今期中には計上が見込めると考えています。

2020年度 第1四半期 営業利益の変動要因

- 物量変動の影響が大、費用等全般の見直しで一部をリカバリー。



- 全般に物量減少の影響が大きく減益。
- 固定費についてはプリンターの販売投資を抑制するなど費用全般に見直し、抑制をはかったものの補いきれませんでした。

2020年度 第1四半期 B/Sの概要

- 各資産・負債の構成に大きな変化無し、総資産は圧縮。
- 自己資本比率は0.5ポイント減少。

(単位:億円)	20年6月	20年3月	前年度末比
流動資産	2,175	2,367	△192
固定資産	1,338	1,357	△19
資産の部	3,513	3,725	△212
流動負債	1,497	1,599	△102
固定負債	1,029	1,061	△32
負債の部	2,526	2,660	△134
自己資本	985	1,062	△77
その他	2	2	0
純資産	987	1,064	△77
負債及び純資産合計	3,513	3,725	△212
自己資本比率(%)	28.0	28.5	△0.5
DELシオ(倍)	0.8	0.7	+0.1

- 各資産・負債の構成に大きな変化はありません。
- 総資産は前期末から212億円減少の3,513億円。
自己資本は77億円減少の985億円となりました。
結果、自己資本比率は28.0%、DELシオは0.8倍となりました。

2020年度 第1四半期 キャッシュフローの概要

- フリー・キャッシュフローはほぼ前年並み。

(単位: 億円)	20年度 実績	19年度 実績	前年比
I 営業キャッシュフロー	160	112	48
II 投資キャッシュフロー	△35	7	△42
フリー・キャッシュフロー(I + II)	125	119	6
III 財務キャッシュフロー	△68	△49	△19
現金および現金同等物の残高	521	336	+185
固定資産取得額	25	39	△14
減価償却費	30	30	-

- フリー・キャッシュ・フローは125億円の収入超過でほぼ前年並み。
- 現金同等物は521億円とやや余裕ある適正水準を保っております。

2020年度 通期業績予想

- ソリューションシステム
前年度にあった大型案件(NW関連および一部官公庁向け)の剥落、前年度の売上基準変更の初年度影響が消え減少。
- コンポーネント&プラットフォーム
新型コロナウイルス感染症の影響による海外市場での販売不振が継続。プリンター消耗品の需要減少は通期で影響が残る。国内市場の影響は限定的。

(単位:億円)	20年度 予想	19年度 実績	前年比
ソリューション 売上高	1,950	2,291	△341
システム 営業利益	150	208	△58
コンポーネント&プラットフォーム 売上高	2,050	2,163	△113
プラットフォーム 営業利益	10	55	△45
その他 売上高	50	119	△69
その他 営業利益	0	△6	+6
消去・本社費 営業利益	△75	△90	+15
合計 売上高	4,050	4,572	△522
合計 営業利益	85	168	△83

前提為替レート
USD: 110円
EUR: 120円

※19年度実績はリステート後

- 2020年度の業績予想はご覧の通りです。
- ソリューションシステムは、前年度の売上基準の見直しの初年度影響や大型案件の減少などの影響があります。社会インフラ領域では航空関連で、ネットワーク領域ではインフラ増強投資などで、強い需要が継続しているものの、全体としては売上高の前年比減少は避けがたいと予想され、その結果、売上の減少にともなう営業利益の減益を予想しています。
- コンポーネント&プラットフォームは、国内市場では一部に期ズレの可能性はあるものの、年間では大きな影響が無いと見込んでいます。アジア市場で低調な自動化機器の入札は第3四半期以降は回復に向かうと想定しています。一方で、欧米市場におけるプリンター販売不振は年間を通じて状況の改善は困難であると予想しております。この結果営業利益は減少となりますが、減少額のほとんどがプリンター関連に起因すると見込んでいます。
- 年間見込みにおける新型コロナウイルス感染症の影響額は、売上高で約200億円、営業利益で約60億円のそれぞれマイナス影響を想定。このうち、国内市場での影響は売上高7億、営業利益で1億程度に留まり、大半は海外市場での影響です。
- 現在のハードウェアの海外事業については短期的な業績については感染症の影響が大きいと考えています。しかしその一方でニューノーマルな社会構造への適応を考えたときには、さらに抜本的な構造改革が必須と認識しており、諸対策については速やかな実行が必要と考えます。
- 構造改善策については、現在急ぎ取りまとめ中です。特別損失の発生等予想されますが、今年度決算への影響額の全体感が判明次第速やかに開示を行う予定です。従いまして、本日時点での通期業績予想は、売上高と利益については営業利益までとしております。何卒ご了承ください。

ご注意

※本資料における業績予想および事業計画等は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断される一定の前提に基づいております。したがって実際の業績は様々な要因により、これらと異なる可能性があることをご承知おきください。

※億円単位の数値の表示方法について：
各項目の数値は、それぞれの数値の億円未満を四捨五入して表示しています。
また増減については、億円単位の数値を元に計算しています。

